日本女性会議2010きょうと

2010年10月1日(金)～3日(日)／国立京都国際会館

10/1 分科会 … 「ジェンダー平等に向けて」他10のテーマ
10/2 全体会 … 基調報告、記念講演 パネルディスカッション
次期開催地 … 松江市(島根県)

異世代コミュニケーション ～未来へつなぐ男女共同参画～

Pick up

パネリスト
滝村 雅晴(たきむら まさはる)さん
[パパ料理研究家]

企業戦士として仕事ばかりの生活をしていたが、長女の誕生をきっかけに料理を始めたところ、男の料理(自分が空腹で作る)とパパ料理(家族が空腹なことに気づいて作る)は違うと気づいた。

主体性を持って自ら家事育児に携わり、積極的にパパを楽しんでいることが、家族の幸せにつながっていると思う。生活の中でガチガチに役割分担をするのではなく、常に相手を思いやり、目の前のことに気づいていく習慣を身に付けることが大切だ。まずは、ロールモデルとなる、育児を楽しんで生活している父親のいる家族と交流しながら、家庭や地域に父親の居場所を作っていく。そのようなことが増えていけば、男女共同参画につながるのではないだろうか。

男女共同参画推進ブラッシュアップセミナー

2010年12月21日(火)／いわき産業創造館(ラトブ6F)

「ふくしまの男女共同参画のこれからと未来館のこれから」inいわき

講師
千葉 悦子(ちば えつこ)さん
[福島県男女共生センター館長・福島大学行政政策学類教授]

未来館は誕生10年を迎え、昨年4月に新館長に就任した千葉さんが「地域に根づいたセンター」を目指して、5つの要項を示しました。

1. 気づきを大切に…学びの機会の提供
2. 啓発・普及活動から実践への支援
3. 交流活動の拠点に
4. 人権の視点から幅広く
5. 地域からの発信

社会教育を研究している見地から、飯舘村の「若妻の翼」を例に挙げて、村が学びの機会を用意し女性が生き生き暮らせる地域づくりで男女共同参画が根づいていくことを取り上げました。

また、子ども・高齢者・障がい者などの人権問題はすべて男女共同参画問題につながるため、人権という立場から共同参画への取り組みを地域社会で支える必要があると述べ、さらに、地域に即した福島県の取り組みを全国に発信していくことが大切だと話しました。